

## 1. 特に効果的であり改善に資した事例について

### E. 学習・研究環境の改善

#### ⑤その他

##### ●首都大学東京理工学研究科生命科学専攻

##### 「企画評価力を備えた創造的生命研究者の育成」の事例

###### (具体的に何を実施したのか)

学習環境の改善については、大学院生が研究室を超えて、相互に教え合うことを奨励した。そのために、新たに学生が交流して相互に教え合う場となる交流実験室を新設した。

研究環境の改善については、学生グループに研究環境の改善についての提案を出させ、相互に評価させた後、優先度の高いものについては、予算を与えて改善を実施させた。

###### (実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

学習環境の改善については、学生からの企画提案の確認および、報告書の指導以外は、できるだけ教員の関与を減らし、学生自身の教育力の向上に資するように努めた。

研究環境の改善については、一時的な改善に留まることなく、予算措置を受けた改善については、その後も学生中心に維持整備することを義務付け、研究環境の維持に学生グループが主体的に関わり続けるように指導した。

###### (どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

生命科学の分野では、新しい研究技術が次々に現れ、個々の研究室に必要なすべての技術を遅れなく習得していくことは困難である。しかし、研究室間を超えて大学院生が教え合うと、最新の技術を専攻全体に広く浸透させることができる。教える大学院生は、実際に自分の研究に活用している大学院生であり、年齢も近いので、実際的な面を遠慮無く教え合うことができた。

最近の大学院生は、与えられた機材で研究を進めることができても、その機材を自分で用意したり、維持整備することには、大変足りない傾向があった。大学院生グループに研究環境の改善を考えさせ、支援の上実施させることで、自ら研究環境を改善させていく力をつけさせることができた。